

令和4年度 水道情報活用システム標準仕様審査委員会(第2回)

議事録

令和4年度 水道情報活用システム標準仕様審査委員会(第2回) 次第

令和5年3月9日(木) 15:00~16:30

会議室: 水道技術研究センター第1会議室+Zoom

1. 挨拶

安藤理事長
石井委員長
厚生労働省
経済産業省
独立行政法人 情報処理推進機構
研究会事務局

2. 出席状況・資料確認

3. 議事

凡例: ☆; 報告事項、●; 決定事項 or 今後の検討内容、➤; コメント等

3-1. 前回議事録の確認

☆ 資料-1に基づき、前回審査委員会議事録の確認を行った。

● 出席委員からの異議はなく、承認された。

3-2. 改定要求書(CR)の審査

☆ 資料-2、資料-3、資料-5に基づき、研究会事務局から説明を行った。

● 改定要求書(CR)の審査結果:
出席委員からの異議はなく、承認された。

(出席者からのコメント)

➤ 水道標準プラットフォームに興味を持ってくれる方が増えるとともに、実際に使用を検討いただくケースが増えてきている。改定内容については膨大な領域となる

が、研究会 SIG に参加している各事業体や各ベンダの方々に熱心な討論をいただき、本日の審議・承認に結び付いている。この場を借りて御礼申し上げたい。(研究会会長)

- 普及活動について、昨年 11 月のウェビナーで多くの参加者があり、認知度が上がって良いことだと考える。広域連携については都道府県で広域化推進プラン策定が進んでおり、災害対策やシステムの共同化において水道情報活用システムが有効であるということを都道府県の担当者に対して、引き続きの説明をお願いしたい。(八戸圏域水道企業団)
- 仕様を見ていると、料金や会計など二方向に関連する項目が見受けられるため、横の仕様を検討する時期にきていると感じる。他にもプラットフォームを作るような話もあるので、その接続についても検討が必要である。(金沢市企業局)
- 膨大なデータ量のなかで必要なデータ抽出も必要かと思われるため、引き続きの検討をお願いしたい。(大津市企業局)
- 今回、かなりの量の追加項目があり、驚いたとともに当初からの予定とどれだけ変更があったのか気になる場所である。データ項目が増えることで、最終的には利活用に結び付けていく必要があり、その辺りの課題なども皆さんと考えていきたい。(大阪市水道局)
- 今回の改定でデータ項目が増えていることは良いことである。当市においても監視制御システムを利用する側となってくる状況で、事業体やプラットフォーム、ベンダの意見を調整しながら横との連携をつないでいかないと、クラウドでのデータ利活用の面だけでは今後の展開がなかなか進まないのではないかと。(奈良市企業局)
- 今回の改定で多くのデータ項目が増え、施設台帳をはじめ、実際に入力する際は大変そうな印象を持った。当市の施設台帳システムについても便利に使用させていただいており、引き続き活用していきたい。(岡崎市上下水道局)
- 今回の改定について、自治体や事業体の皆様のニーズに従った、いわゆる現場に密着した内容であったと感じた。一方で、自治体に向けて様々な地図情報をクラウドでサービス提供している事業者として、質問をよく頂くようになった。認知度も高まってきており、軸をずらさないようにこれからも尽力していきたい。(パスコ)

- 仕様書の改定については、ご苦勞を頂き良いものになったと感じている。その一方で、仕様書に関しては導入済みの事業体やベンダ以外からの意見が出にくい環境になっている。これから導入を考えている方々からも広く意見を収集できるように、設計、導入、利活用といった各フェーズでの課題や事例を共有していくことが普及につながり、改定の良いアイデアの抽出ともなり得る。皆様と情報共有できる場があるとありがたい。(メタウォーター)
- 研究会として、事例集作成の可能性はあるのか。(石井委員長)
- 昨年 11 月のウェビナーでも浪江町様や大津市様から様々な事例をご共有いただき、参加者からの反響も大きいものであった。導入事例や各フェーズの苦勞した点や気を付けるべきポイントなどを共有できるような機会を増やせるよう取り組んでいきたい。(研究会事務局)
- 今回の改定について、現実に沿った形で良いものになっていると感心している。当社は監視制御側をメインとしているが、現場からのご意見としてデータ利活用やデータの他事業所間連携、ベンダ間のアプリケーション連携といった具体的な声をいただくようになり、良い傾向と捉えている。一つのテーマとして、小規模事業体が使いやすいものを目指し、ベンダの価格設定を含めてプラットフォームとも連携しながら検討していきたい。(アズビル)
- 事業体側も様々な課題を抱えており、そのなかで水道情報活用システムがどのように生きてくるのか着目されている。先行事例や維持管理、運用管理などの情報が知りたいとの声もある。今後の取組みにおいて進めていただきたい。(日本水道協会)
- 水道情報活用システムの認知度は向上していると感じるが、簡易水道ではなかなか導入が進んでおらず、費用面などで課題がある印象を持っている。費用対効果やメリットについて説明しながら、広域化における重要なポイントであることも踏まえ、普及に努めていきたい。(全国簡易水道協議会)
- 今回の改定についてかなり多くの項目が増えているが、当協会でも備蓄資機材のデータベースを構築した研究があり、弁類や管材をはじめとした数千もの項目があるなかで、同じような苦勞をされたことと思う。(日本工業用水協会)
- 導入事例に関する話があったが、来年度に情報処理推進機構と連携し、事例を取りまとめていく活動を進めていきたいと考えている。多岐にわたる事例のなかで、

導入効果を定量値として示すことができれば導入の後押しになるといった状況も見えてきており、引き続き検討を進めていきたい。(経済産業省 情報産業課)

- 導入促進に向け、導入が完了している事例が重要であると考えており、そのような事例の紹介ができるよう進めていきたい。(厚生労働省)
- 今日話を聞いて、データ利活用を含めた次のフェーズに移っていく段階にきていると感じた。工業用水においては昨年からの参入しているということもあり、ファーストステップが目下の課題である。導入することによるメリットや値段などが見える化されないと検討も進まず、共通認識のなかで先行事例を共有するよう進めていただけるとありがたい。(経済産業省 地域産業基盤整備課)
- 当センターではスマート水道メーターの普及に向けた活動も行っているが、そこでも費用対効果の話題は出ており、いかに利活用を行うかについて検討している。今後すぐには言わないが、水道情報活用システムとの連携の場面も出てくるかと思われる。(安藤理事長)

4. その他(標準仕様研究会からの連絡事項)

- ☆ 資料-6に基づき、研究会事務局から説明を行った。

添付資料

- 資料-1 令和4年度 水道情報活用システム標準仕様審査委員会(第1回)議事録(案)
- 資料-2 標準仕様書の改定審議依頼書
- 資料-3 改定要求書(CR)
- 資料-4 別紙1_WPSC001_Ed.1.2_基本仕様書(案)
- 資料-5 別紙2_改定(案)の抜粋
- 資料-6 水道情報活用システム標準仕様研究会の活動概況について

以 上